



いちばん足の数が多い動物は何なの

ヤスデが、いちばん足の数が多い

ムカデやヤスデは、見ただけで足が多いのがわかります。やはり、足の多さでは、ヤスデがいちばんです。ムカデもヤスデも、体がたくさんの節に分かれています。ヤスデは、この1つの節ごとに4本の足がついています。今までにわかっている、足の数の最高は、710本です。ムカデは、ヤスデよりは少し数が少なくなります。ムカデは、1つの節ごとに2本の足があり、種類によってちがってきますが、28～354本の足があります。

チョウやガの幼虫は、足がたくさんある「いもむし」ですが、ふつう16本の足があります。さなぎからチョウやガになると、こん虫のきまった足の数の、6本になります。つぎに多いのは、ダンゴムシで、14本も足があります。

海にすむ生き物の足の数

海にすむものでは、イカが10本足、タコが8本足ですが、エビやカニの仲間も足は8本です。ヒトデの仲間も足が多く、種類によっては、足が50本というものもいます。

こん虫は6本、ほ乳動物は4本

こん虫の仲間は、どれも足が6本です。クモは、こん虫と思われることが多いのですが、足は8本で、こん虫とは別のグループになります。

人間だけはちがいますが、お乳で子どもを育てるほ乳類の仲間は、みんな足は4本で、ふつう、その4本の足を使って歩きます。

進化のとちゅうで、足（人間の手にあたる）が、つばさに変化してしまった鳥の仲間は、足が2本になりました。（監修・今泉 忠明）

